



# 国際大会発表奨励事業 (第67回韓国小児歯科学会大会) 報告書

Korean Academy of Pediatric Dentistry  
The 67th Scientific Meeting and Annual Congress

일시 : 2026.4.25 (Sat.) – 4.26 (Sun.)

장소 : COEX conference room (south 4<sup>th</sup> floor)

BRIDGING GENERATIONS,

**세대를 잇고, 미래를 열다**

SHAPING THE FUTURE



# 目次

公益社団法人日本小児歯科学会前理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
東京歯科大学小児歯科学講座	井野 詩絵里	P3
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学	金木 亜美	P3
九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野	佐々木 敦英	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	夏江 華瑠奈	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	山中 佑真	P5
(医) 榎の木会さわやか歯科	吉田 茉里	P5



## 第67回韓国小児歯科学会（KAPD）大会における国際大会発表奨励事業

公益社団法人日本小児歯科学会前理事長  
新谷 誠康



本事業は第67回KAPD大会（2026年4月25～26日、ソウル、COEX）において、筆頭発表者となる大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの会員に対して、大会参加に必要な諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を促進するために行われました。なお、本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（故佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。故佐野理事の生前の日本小児歯科学会へのご尽力に感謝を申し上げます。

研究報告、症例報告にかかわらず、本事業の支援を受けた若手小児歯科医の発表レポートから感じるのには、内容のレベルの高さと国際舞台に物怖じしない意志の強さです。これらを見てみると、日本小児歯科学会では国際感覚に富んだ若手小児歯科医が確実に育っていることがわかります。発表や学会イベントに、学会外イベントにも真剣に取り組み、かつ楽しんできたことが窺い知れ、国際的な学会活動や交流が若手小児歯科医からも推し進められているのがわかり、大変嬉しく、頼もしく思います。

本事業を企画運営いただいている仲野和彦国際渉外委員長は来年に大阪で開催される第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会の大会長として、その準備に邁進しておられます。IAPD大会を成功させるためには、年月を重ねたベテランの小児歯科医はもちろんのことですが、若手小児歯科医の国際的な活躍と交流がもう一つのキーポイントになると考えます。未来の日本小児歯科学会の国際的な立場は、これら綺羅星の如く居並ぶ若手小児歯科医の双肩に委ねられていると言っても過言ではありません。これからも日本小児歯科学会の若手会員が国際舞台において大いに活躍することを期待しています。

## 世界へ向けた成長を実感して

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長  
仲野 和彦

「国際大会発表奨励事業2026」の1つとして、2026年4月25～26日にソウルで開催されました第67回韓国小児歯科学会大会に参加する若手会員の支援を行うことができました。本事業は、日本小児歯科学会および故佐野正之先生のご寄付によって創設されたASUNARO基金によって実現したものであり、この場をお借りして改めて厚く感謝申し上げます。

本報告書には、支援を受けて発表を行った若手会員の先生方による発表内容や大会参加の感想が記載されています。どの発表も大変質が高く、日本小児歯科学会を代表するにふさわしい内容であることを実感しました。

今回、私自身が強く感じたことは、若手の先生方のプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力が着実に向上しているということです。英語での発表や質疑応答においても、「自分の研究や症例を相手に理解してもらいたい」という積極的な姿勢が随所に見られ、大変頼もしく感じました。

2027年に大阪で開催される第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会まで、いよいよあと約1年となりました。36年ぶりとなる日本開催を成功へ導くためには、日本の若手小児歯科医が国際舞台で自信を持って発表し、世界の先生方と交流することが極めて重要であると考えています。今回のKAPD大会では、その大きな可能性を強く感じることができました。

また、今年度の受賞者授与式では、故佐野正之先生への追悼が行われました。佐野先生が若手会員の国際的な成長を願い築かれたこの事業は、現在では日本小児歯科学会全体として大切に受け継がれている思いであると感じています。私自身も国際渉外委員長として本事業を支える立場から、若手会員が安心して国際舞台へ挑戦できる環境づくりに今後も努めていきたいと考えております。

国際学会への参加は、研究成果を発表するだけでなく、世界中の小児歯科医と交流し、多様な価値観に触れる貴重な機会です。本報告書をご覧いただいた若手会員の先生方にも、「次は自分が挑戦してみよう」と感じていただければ幸いです。

## Seoul Searching at KAPD2026

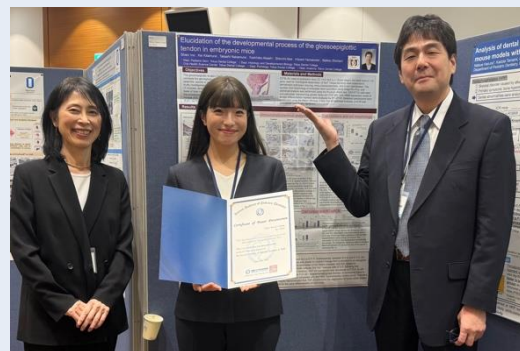
東京歯科大学小児歯科学講座  
井野 詩絵里

### 発表内容の説明

喉頭蓋は、食べ物が気管に入るのを防ぐ「ふた」の役割をする器官です。私たちは、オトガイ舌筋と喉頭蓋軟骨を直接つなぐ新しい構造「オトガイ舌筋喉頭蓋腱」を発見し、嚥下の動きを助けている可能性を見い出しました。本研究では、この構造が胎生期マウスにおいて、いつ、どのように作られるのかを調べました。正常な発生における嚥下器官の形成を明らかにすることで、生まれつき起こる嚥下障害の原因解明につなげます。

### 大会参加に関する感想

このたび、国際大会発表奨励事業により、KAPD2026での発表の機会を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。私にとって初めての国際学会発表であったため、不安や緊張を感じる場面もありましたが、自身の研究内容を海外の先生方に発信する大変貴重で有意義な経験となりました。発表や質疑応答を通じて、自身の考えを的確に伝えるための語学力の必要性を改めて強く実感いたしました。また、韓国の食文化にも触れることができ、現地ではしか得られない貴重な経験となりました。今回の経験を今後の研究活動ならびに臨床に活かし、今後も国際学会で研究成果を発信できるよう、より一層努力してまいります。



ポスター発表後の笑顔



私を見つめるかわいいパンたち

## KAPD2026大会での発表を終えて

### 発表内容の説明

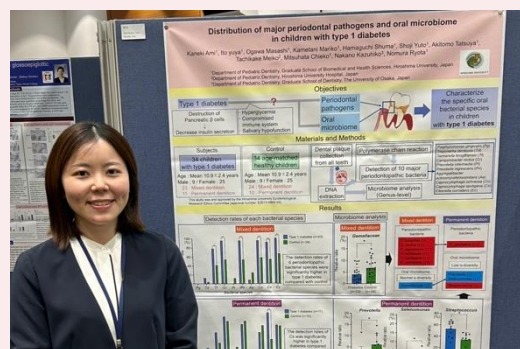
近年、口腔細菌と糖尿病との関連性が注目されています。しかし、その多くは成人の2型糖尿病を対象とした研究であり、小児の1型糖尿病に関する報告はほとんどありません。本研究では、1型糖尿病患者および健常児から歯垢を採取し、口腔細菌種の解析を行いました。

その結果、混合歯列期においては、健常児と比較して1型糖尿病患者で6種類の歯周病原性細菌の検出率が有意に高いことが明らかとなりました。また、永久歯列期では、1型糖尿病患者で口腔細菌叢の多様性が低い結果となりました。これらのことから、1型糖尿病の患児には特異的な口腔細菌叢が存在する可能性が示唆されました。

### 大会参加に関する感想

この度はKAPD2026大会に参加する機会をいただき、ありがとうございました。KAPDは今回で2回目の参加となりましたが、英語での発表はやはり緊張し、改めて語学力の大切さを実感しました。また、参加された先生方の研究発表を通して多くの刺激を受けるとともに、韓国の文化や美味しい食事を楽しむことができ、とても充実した学会参加となりました。今後もこのような国際学会で発表できるよう、さらに精進していきたく思います。

広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学  
金木 亜美



ポスターの前で



韓国での食事の様子

## 第67回韓国小児歯科学会に参加して

九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野  
佐々木 敦英

### 発表内容の説明

アメロラスチンは、歯の表面を覆うエナメル質の形成に重要なタンパク質です。本研究では、アメロラスチンがGPC4という細胞表面の分子を介して、歯を作る細胞の接着や増殖に影響するかを調べました。

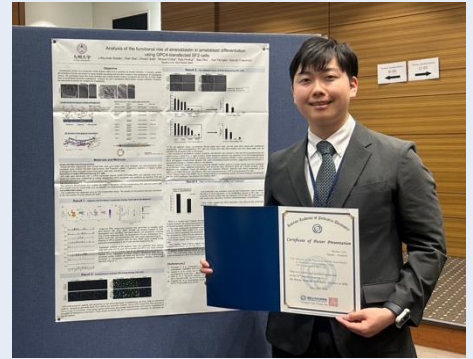
その結果、GPC4を多く持つ細胞では、アメロラスチンによって細胞の接着や増殖が低下する傾向がみられました。これらの結果から、GPC4はアメロラスチンの働きを仲介し、歯をつくる細胞の成熟や分化に関わる可能性が示されました。

### 大会参加に関する感想

今回は国際学会で初めてポスター発表をさせていただきました。英語による発表や質疑応答には緊張しましたが、自信を持って挑戦した結果、受賞することができ、大変貴重な経験となりました。

また、中国や韓国の先生方とも交流する機会を得ることができ、研究に対する視野を広げることができました。さらに、韓国の街並みや食文化にも触れることができ、非常に嬉しく感じました。

今回の発表を通して多くの刺激を受け、今後はより一層研究に励んでいきたいと強く感じました。この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



ポスター発表



ソウルタワー

## 2度目の KAPD 大会に参加して

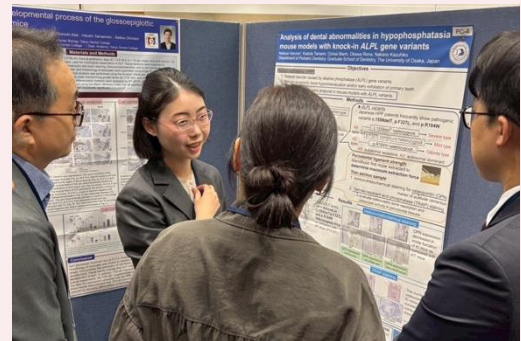
### 発表内容の説明

低ホスファターゼ症 (HPP) は、ALPL 遺伝子の病的バリエーションにより引き起こされる骨系統疾患です。本研究では軽症型および歯限局型 HPP に多いバリエーションを有するマウスを作製し、歯科症状を解析しました。その結果、いずれのノックインマウスにおいても、歯根表面のオステオポンチンの発現が少なく、TRAP 染色において破骨細胞の発現を認めました。さらに、歯根膜牽引試験よりノックインマウスは野生型と比較して第一臼歯抜歯時に要した最大荷重の平均値が低い値を示しました。これらからセメント質形成異常および破骨細胞活性の増加が生じている可能性が示されました。

### 大会参加に関する感想

この度は国際学会発表奨励事業により、KAPD2026 大会に参加する機会をいただきました。自身にとって去年度引き続き2度目の KAPD 大会への参加であり、前回よりも質疑に対応することができました。また、同世代の先生方の発表からも数多くの新しい知見を得ることができました。懇親会でのサムギョプサルはとて美味しくて、また韓国を訪れたいと感じました。今後も国際学会で発表させていただけるよう研究に励みたいと思います。

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座  
夏江 華瑠奈



質疑応答の様子



医局の先生方と韓国料理を囲んで

## KAPD2026大会に参加して

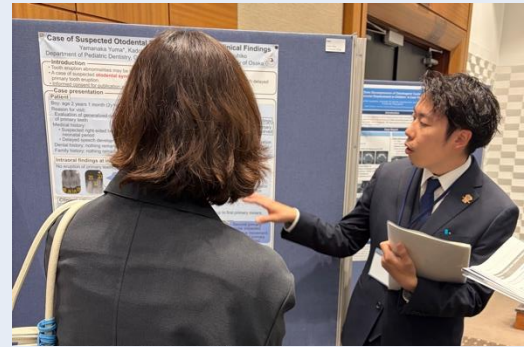
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座  
山中 佑真

### 発表内容の説明

今回、2歳1か月時に乳歯の萌出遅延を主訴として来院し、Otodontal syndrome が疑われた患児について発表を行いました。Otodontal syndrome は、歯の萌出異常、球状の歯冠、両側性進行性の感音性難聴などを主症状とする遺伝性疾患です。本症例では、2歳5か月時から乳歯の萌出が開始しましたが、萌出歯にはエナメル質減形成を伴う球状歯冠が認められ、新生児期に右耳難聴の疑いがあったことからOtodontal syndrome が疑われました。そのため、定期的な口腔内管理を行い、歯科処置への協力が得られた3歳4か月時にエナメル質形成不全部に対してコンポジットレジン修復を行いました。今後は小児科への対診を行うとともに、永久歯の萌出状況及び歯列咬合状態の管理を継続する予定です。

### 大会参加に関する感想

この度、国際大会発表奨励事業により、KAPD2026大会に参加する機会をいただき、ありがとうございました。国際学会での発表は昨年のTAPD2025大会に続き2回目となり、英語での発表や質疑応答には緊張もありましたが、大変貴重で有意義な経験となりました。今後も、本大会での経験を日々の臨床や研究に活かしていきたいと思っております。また、今回が初めての韓国渡航でしたが、本場の料理や現地の文化に触れることができ、韓国への理解を深める貴重な機会となりました。



ポスター発表の様子



ピョルマダン図書館にて

## 国際学会での初めての発表を通じた実りある交流

(医) 檀の木会さわやか歯科  
吉田 茉里

### 発表内容の説明

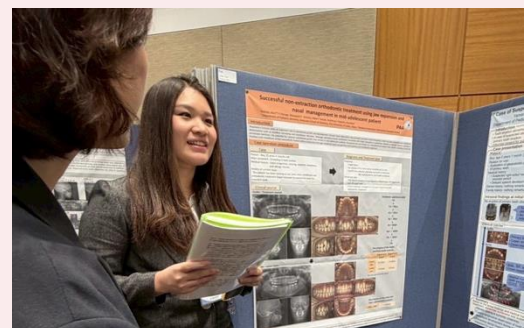
今回、上下顎前歯部に叢生を認めた15歳の患者に対し、鼻疾患の管理を行いながら上下顎を拡大することで非抜歯にて叢生を改善した症例について発表しました。小児期における顎顔面領域の成長には、咀嚼機能や呼吸機能などの発達に密接に関連していることが知られており、特に呼吸機能は顎顔面の成長方向に影響を及ぼす重要な要因です。鼻疾患などによる慢性的な鼻閉は持続的な口呼吸を誘発し、上顎の狭窄や下顎の後退などの顎顔面形態の発育不全を引き起こす可能性が指摘されています。

本発表にて、筋機能矯正装置と拡大装置を併用することで、思春期中盤の患者であっても、上顎の前方および側方への発育を促進できる可能性を示すことができました。

### 大会参加に関する感想

この度は、国際大会発表奨励事業により学会に参加させていただき大変感謝申し上げます。初めての学会発表が今回のKAPDだったためとても緊張しましたが、韓国の先生方が親切に接して下さり、また教室の先生方のおかげで無事に終えることができました。同じ研究分野の先生とも交流し、日本と韓国の共通点や相違点を知ることができ非常に学びのある貴重な時間となりました。

今回の学会で得たことを、これからの研究や日々の臨床に活かしていきたいと思っております。



ポスター発表の様子



懇親会での交流